

6年

地域の老人福祉施設とのかかわりから

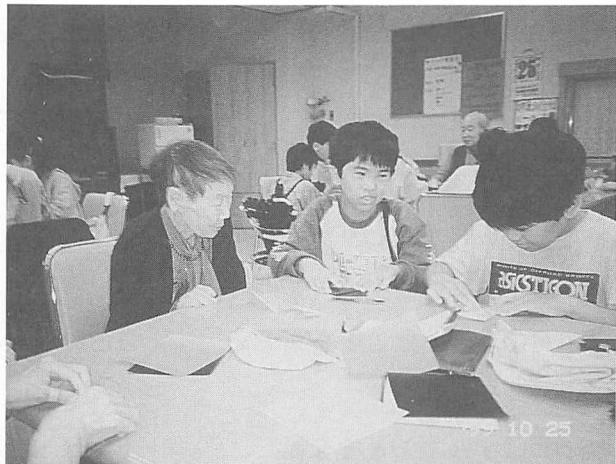
『笑顔いっぱいの緑丘』の実践

札幌市立緑丘小学校 東間 義孝

◆単元のポイント

○ “『福祉』先にありき”に一考を

この単元は、地域にある道内最古の老人福祉施設の訪問をきっかけにして、そこで「生活されているお年寄り」や「働いている人々」とかかわる活動を中心に構成しながら、それらを通して地域や自分自身を見つめていく展開を実践していました。つまり、入り口は「福祉」であっても、出口は「福祉」と限定していないのです。



○自分の生き方の見つめ直しへ

転勤族が多いという地域性もあり、祖父母と同居している子は十数名と全体の一割にも及びません。この実態を踏まえ、子供たちに地域のお年寄りや働く人とのかかわり（異年齢交流）を通して、豊かな人間性に触れたり「自分がしたことで他の人が幸せな気持ちになる」という心地よさを味わわせたいと考えました。そのため、自分の生活を見つめ直し（子供にとって、家庭・校内・地域での生活そのものが“自分の生き方”），もっとよりよいものにしたい、笑顔いっぱいの緑丘にしたいという気持ちを込めて「〇〇し隊」を結成し、実践化していました。

◆単元の目標

- お年寄りや施設で働く人と積極的にかかわりをもち、自分の生活を見つめ直し、もっとよい生活を築いていこうとする。
- 地域の人々とのかかわりを通して、お年寄りや施設で働く人のすばらしさがわかり、校内や地域で自分ができる計画を立て、実践しようとする。

◆単元の構想（20時間扱い）~~~~~

～笑顔いっぱい緑丘～

- ・道内で一番古くからある老人施設である新聞記事をきっかけに
- ・生活科での老人クラブとの交流を想起させる

慈啓会老人施設に行ってみよう

<1回目>

- ・どんな方がいるの
- ・どうしたら…

お年寄り

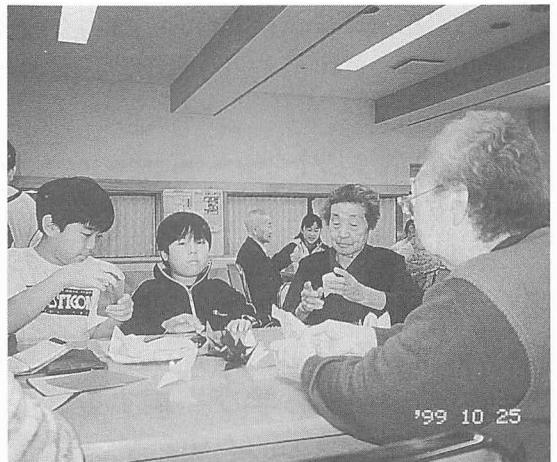
自分

かかわり

施設で働く人

<2回目>

- ・もっと喜んでもらいたい！
- ・自分たちにできることは？



- *相互評価を行い、それぞれのかかわりを認め合う

慈啓会訪問交流会をしよう！

- ・いいことをすると気持ちがいい

この笑顔をもっと広げよう

- *「○○し隊」を結成し、実践への意欲化を図る
- 地域を お年寄りと 他の学年と
よくし隊 ふれあい隊 仲良くし隊

「笑顔いっぱい緑丘」を続けよう

*施設の方に子供たちの行いを賞賛、広げていくようご示唆いただき
(他者評価による価値付け)

◆実践するにあたって~~~~~

この実践の出口を「福祉」に求め、一人一人の課題追求していくことも可能です。また、本校のように卒業期の子供の「自分の見つめ直し」や「地域や学校へ積極的に働きかける」展開も見逃せません。